

CONTENTS

▼土木に関わる人と活動

▽つなぐ活動

- ・土木コミュ+IP
- ：田中努

▼土木のはなし

▽これも土木

- ・「これも土木」を発見する話（5）：野村吉春

▽子どもが知りたい土木の世界を発見！（ぬりえ）

- ・土木のしごと「床固工」

▼フレンズコーナー

- ・東亜建設工業のESG経営と社会とのつながり
- ：猪飼吉宏

▼事務局通信

CNCP通信

VOL.121／2024.5.5

■今月の土木■



●浅野像のもとに集まった新入社員たち

■東亜建設工業と社会とのつながり

当社は1908年の創業以来、創業者浅野総一郎の想いである「社会を益する」を礎に社会価値の創造に取り組んできました。神奈川県鶴見の埋立から出発し、港湾に関わる工事を主軸としつつ、陸上土木、建築分野、海外事業にも活動の領域を広げ、社会資本整備に貢献しています。また、当社グループはESG経営に取り組んでおり、各事業を通じ社会との連携も強めています。本稿ではその具体事例をご紹介します。（猪飼吉宏）

▼フレンズコーナーに続く。



▼土木に関わる人と活動/つなぐ活動

土木コミュ+IP (インフラパートナー)

土木と市民社会をつなぐフォーラム&土木学会インフラパートナーG 幹事長
CNCP 常務理事&事務局長
(メトロ設計 取締役)

田中 努



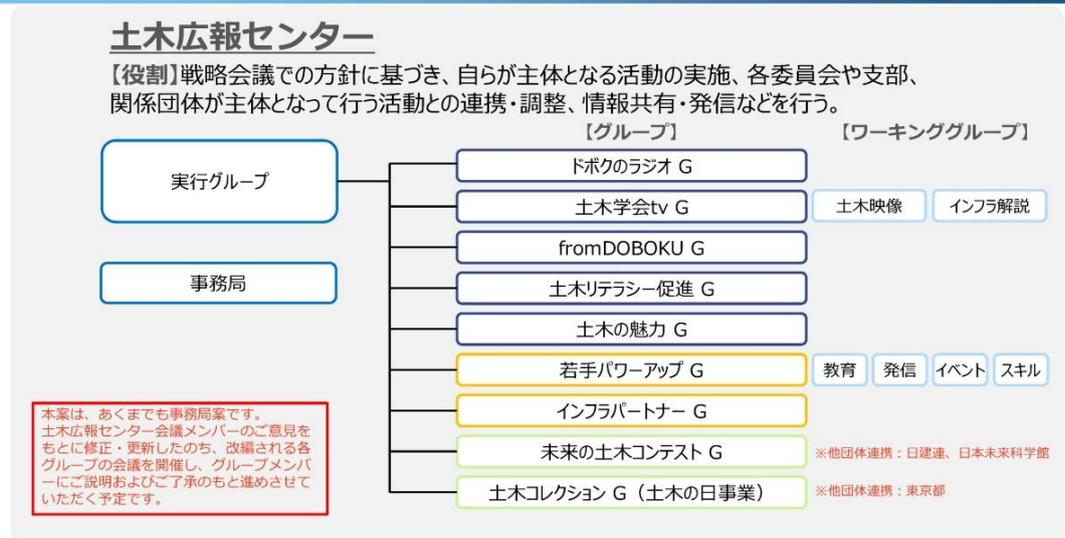
■「土木コミュ+IP」を始めます

「土木学会 土木広報センター インフラパートナー・グループ」については、先月 4 月号に紹介しましたが、土木広報センターは、2024 年度から、下図のように再編成されようとしています。「インフラパートナーG」は、下から 3 番目に書いてあるグループです。

「土木広報センター」は、土木学会の「企画戦略グループ」の「コミュニケーション部門」の「学会誌編集委員会・土木の日実行委員会・社会コミュニケーション委員会」と並んでいる組織ですが、皆さん、ご存じですか？ 私は、土木学会の多数の小委員会に参加し、ず〜っと毎月 2~3 回、学会に来ていましたが、CNCP の山本代表と出会うまで、「土木広報センター」の存在を意識しませんでした。

しかし「土木広報センター」は、土木と市民をつなぐ面白い活動を、精力的に展開しています。世の中には、知らないから見ないだけで、見てみると面白い！っていうのは、沢山ありますね。ここ「土木コミュ+IP」では、土木広報センターとインフラパートナーの取り組みを紹介していきます。

土木広報インフラの整備 (事務局案)



■今月のトピックス

国際企業映像協会 (ITVA-日本) が主催する「CONTEST 2023」に、土木学会から応募し、社外・コミュニケーション部門で、以下の 3 作が入賞しました。

- ・自分の言葉で伝える土木 (2023 年度会長特別 PJ) : 金賞
- ・【となりの現場めし】第 4 弾「都市土木」(土木学会 tv グループ) : 銅賞
- ・土木学会公式プロモーション動画「Join us!」(土木広報センター) : 審査員特別賞

土木広報センターのサイト (下記の URL) で、それぞれの動画を見ることが出来ます。是非、見てみてください。

<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter/node/407>



■土木広報センターのサイトのコンテンツ

土木広報センターのサイトのホーム (<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter/>) には、下記のように沢山のバナーが並んでいます。初めて見る方も多いと思います。それぞれの概要を下記に示しました。ホームページからでも、下記の個別のサイトからでも、是非、覗いてみてください。



■土木学会 face book (<https://www.facebook.com/JSCE.jp/reels/>)

土木学会本部の face book です。フォロワー4.7万人です。

■土木学会 tv (<https://www.youtube.com/JSCEtv>)

チャンネル登録者数 2810 人で、534 本の動画があるそうです。前掲の「ITVA-日本 CONTEST 2023」に入賞した作品の他、下記の「ドボクのラジオ」や「インフラ動画解説」なども見られます。

■ドボクのラジオ (<http://dobaradi.jsce.or.jp/>)

「ドボラジ」では、土木関係者や土木好きの方をゲストにお迎えし、中央区を中心に東京のインフラに関する旬な話題や、土木の魅力をわかりやすく、そして熱く語っています。(中央 FM 84.0MHz)

■from DOBOKU (https://note.com/from_doboku/)

土木のことをカジュアルに噛み砕いたユニークな形で届けることを目的に、土木工学の専門家やイン

フラ管理支援ボランティア、土木工学を志す学生たちが文章、写真、イラスト、動画、音声配信などのコンテンツを発信しています。

■インフラ動画解説 (<https://www.youtube.com/JSCEtv>)

土木学会の専門家が分かり易く解説します。これまでコンクリート編・下水道編・地震編・土砂災害編・河川分野・橋梁分野があります。上記の「土木学会 tv」に掲載しています。

■土木広報大賞 2023 (<http://koho-taisho.jsce.info/>)

日本全国の各地域で展開されている様々な広報のうち、暮らしを支えている土木の役割・意義・魅力について広報を行っている活動または作品などで、他団体の模範となるもの、他団体への展開が期待されるものなどを取り上げ、顕彰することを目的として行っています。

■未来の土木コンテスト (<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter0102/>)

土木学会が、未来を担う子供たちに向けて開催するコンテストです。未来を創造する「力」(企画力・実行力・総合力)を兼ね備えた土木の迫力を、社会に発信することを目的としています。

■土木コレクション HANDS&EYES (<http://dobokore.jsce.or.jp/>)

土木界が保有する歴史資料、図面、写真など普段目にすることができない各種コレクションを展示公開するものです。2008年から始まりました。

土木コレクションの展示内容を一言で表すならば、「HANDS+EYES」です。明治期から昭和初期の土木エンジニアが高い志、熱意、プライドを持って国土づくりに取り組んできたことを、美しく繊細な手書き図面をベースに伝える展示を「HANDS」と呼んでいます。また、近年の土木エンジニアが様々な社会要請に応じて、新しいコンセプトのプロジェクトを生み出してきたことを、魅力的な写真をベースに伝える展示を「EYES」と呼んでいます。

■ドボコレミュージアム (<https://www.jsce-dcm.com/>)

土木コレクションミュージアムの略で、土木界が保有する、普段目にすることができない貴重な写真や図面、歴史資料の数々を web 空間上にバーチャルで展示・公開しています。

この展示では、日本で開催された2つのオリンピックを軸に、世界でも高い生活水準を誇る都市 TOKYO を支えるインフラの魅力を社会背景とともにお伝えします。過去から未来へと脈々と受け継がれてきた土木の蓄積とともに、変貌を遂げてきた TOKYO をぜひ実感してもらえれば幸いです。

■市民普請 (<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter0101/>)

『市民が主導的な役割を果たしながら、地域を豊かにするために実践する公共のための取り組み』が“市民普請”です。まちづくり、みちづくり、川や湿地・里山・里海の再生等、地域の防災計画の立案等、市民普請の対象は多岐にわたります。

■オープンキャンパス土木学会

(<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter0103/taxonomy/term/6>)

土木学会関係者やその家族、地域の方々、土木分野への進学・就職希望者など多様な方々を、四谷の「学会本部」に招き、学会及び学会員が有する知見や技術、資料等を活用した「聞く」「見る」「触れる」体験の中で、『土木』の魅力伝え、『土木』への理解を深めていただく場を提供します。

■今年の夏は、おうちで土木～めざせ！未来の土木博士!!

(<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter0103/taxonomy/term/7>)

2021・2022年に、夏のオンライン自由研究イベントを2日間にわたり開催しました。参加者は小学生で計31名。A・Bコース×1時間×2コマで、合計4コマ(斜面防災実験、ろ過・水質実験、耐震実験、ポケドボカードゲーム)での構成です。参加者には、実験キットを事前に送付し、当日は、オンラ

イン上で、先生と子どもたちによる「対話」を重視しながら土木を学べるようにしました。授業に参加した子どもたちには、『どぼく博士』の認定証を授与しました。

■全国土木弁論大会 (<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter02/taxonomy/term/11>)

2022年から、「ことば」だけで土木を語る、全国土木弁論大会「有馬優杯」を開催しています。伝統的なスピーチ競技である「弁論」を通じて、土木の重要性や魅力の言語化、業界内外での新たな議論の促進を目的とした企画です。「ことば」と「こころ」に向き合ってきた弁士たちが、2023年度は「命をまもるためにできること」をテーマに、渾身の土木弁論で腕を競いました。

■土木の日 (<https://ftp.jsce.or.jp/committee/day/index.html>)

11月18日を「土木の日」と制定しました。続く土木学会の創立記念日である11月24日までの1週間を「くらしと土木の週間」として、土木学会本部・全国8支部で、一般の皆様を対象とした各種イベント、活動を展開しています。

■インフラパートナー (<https://infrapartner.jsce.or.jp/>)

地域に根差したより密接な『連携』という観点から、インフラに関わる市民・団体とパートナーシップ（合意書）を結び、土木学会各支部を交え、連携を図る『インフラパートナー制度』。合意した団体をインフラパートナーと呼び、全国に18団体がいます。

■土木i：どぼくアイ (<https://doboku-i.jp/node>)

私たちの身の回りにあるさまざまな「土木」についての情報源として、見たいところを見たいときに、知りたいことを知りたいときに、すばやく情報が取り出せることを目指しています。「どこかによい見学先があるか」「学習の参考になる講習会はあるか」が探し出せるように、まずは、土木に関係する機関や団体、学協会の行事情報をできるだけ集めて検索できるようにしました。

■土木偉人かるた (<https://www.jsce.or.jp/publication/detail/detail.asp?id=3045>)

48人の土木偉人をかるたにし、土木偉人と土木偉人の代表する功績を絵札にしました。遊びながら、土木偉人が行ってきた功績と土木事業への熱い思いを覚えられます。絵札の裏面には土木偉人の豆知識つきです。学校での土木史教育の副読書として、また土木系サークルやご家庭の教育ツールとして、楽しくご活用ください。

■ポケドボカードゲーム (<https://www.jsce.or.jp/publication/detail/detail.asp?id=3059>)

ポケドボは、広い土木のフィールドの中でも子どもたちの生活に直結する「防災・減災」をテーマとしたゲームです。子どもたちには、遊びを通じて防災・減災の考え方や土木の大切さを伝えます。またインフラと災害の関連性、予防保全や事後復旧の必要性もルールに盛り込んでいます。

▼土木のはなし/これも土木

「これも土木」を発見する話 (5)

(特非) シビルNPO 連携プラットフォーム 理事
NPO法人州都広島を実現する会 事務局長

野村 吉春



■ はじめに

この連載に、お断りなく2回の休筆をいただいたことに、まずはお詫び申し上げます。

これまで、一貫して「市民社会から見えている土木と、見えてない土木の溝を埋めること」に努めてきました。要するに、「土木＝土木工事」だけじゃないんですよ。その前には構想・計画・設計という、多くの市民が日頃余り目にされない仕事が必要なのです。今回の第5話は、その「地域のかたち(後編)」＝「これも土木＝構想・計画・設計」という段階の話をして、解りやすく具体例で紹介したいと思います。

筆者は元々コンサルタントですから、日常的に「地域のかたち」に接する立場にありますが、今回は私自身が30代後半から40代の一番脂の乗った時に担当した「選りすぐりの業務」を紹介します。

■ 事例紹介ー1 山陰自動車道の基本設計

発注者	建設省・中国地方整備局・浜田工事事務所 (旧名称で表示しています)
計画地	島根県江津市黒松町～益田市飯井浦町(山口県境)
業務概要	表記の区間 81km について、縮尺 1/5000 地形図を用いて山陰自動車道の基本設計を行う。 成果品としては、報告書(概算事業費の算定を含む)、縮尺 1./5000 平面図、同縦断図、横断図等

(*0.0) 前もってお断りします。今回の事例は、一部に企業倫理に甘い部分があると思いますが、今から凡そ40年以前には、仕事が「人と人の信用」で繋がる時代で、顧客の上司は筆者よりご年配ですから、「どなたにも失礼にならない」と信じています。

● お仕事のご縁

この業務は建設本省から地方局を通じて、事務所に向けて事務所管内の山陰自動車道の未成区間について大至急(10日間)で基本計画の青写真を示せという話です。

事務所は、国道の改修やバイパス建設が主体で、高速道路を計画した経験が無く、お手上げ状態。事務所に入出入りする複数の業者に打診するも、みな「出来ません!」(*1.1)と断われ困り果てていた。

丁度そんな折りに、別件で事務所に伺っていた筆者にも、担当課長に声をかけられ、概要を聞いた上で、「やりましょう!」(*1.2)と答えたのがコトの始まりです。

(*1.1) 標準仕様書の定める所は(一番重要な平面図だけで22枚、縦横断図を含め全 250 枚に及びます) 今時のように自動設計のない手書きの時代、出来なくて当然です。これがごく普通のコンサルタントです。しかし、設計書などは後で遡って作るのですから、そこは双方の協議なのです。

(*1.2) 筆者は「顧客が何を求めているのか?を掴めれば、求めに必要な成果を提供する。」という方針。しかもこの地域をよく知っている強み。更に「物語を語る」というのは得意で、優れた計画チームがあること。これは、あの当時は測量会社が「OO 測量設計」と看板を掛け変えた時代ですから。

● 夢を見るような構想じゃないか!

(上文の続きです)先ほどの筆者の返事を聞くと、担当課長はピョンピョンこ踊りして「お前も来い」と所長室に飛び込むので一緒に入った。 所長(*1.3)はすぐさま「やあ、君がやってくれるのなら安心だ!」と、そう言われて、筆者の方も固い緊張感が少し解けました。

(*1.3) この所長は、局の企画課長時代に、中国地方の高速道路の計画業務で、既に周知の間柄であった。



◆ そして、所長はおもむろに語り始めた。

一つ目は、「ドイツのアウトバーンのように速度フリーで走れるような線形を描けないか！」「これは本省からそういう指示が出た。」とも付け加えられた。

筆者は、これには、「まるで夢を見るようなスゴイ話ではないか！」と驚喜しました。

そもそも、「白地図に高速道路81kmの一番はじめのルートを描く」という作業自体が、道路の技術者冥利に尽きる。でもねえ、これは実はとてもハイレベルな仕事なんですよ。

それに、本件は私の描いた計画図が、まずは事務所で、次に建設局へ、そして建設本省へと、それぞれの段階で「いい計画だな」という合格を得る・・・という関門をくぐる訳で、このハードルは高いものがあります。

◆ そこで、以下のような構想を立案しました。

① 日本の国土軸は、大筋として「環太平洋軸」の他に「環日本海軸」が必要で、その一環を担う。

これは、国土の均衡ある発展のほか、天災や事故があっても国土の分断を避けるという狙いもある。（*右の添付図は当時に描いていた模式図です。国土軸のなかで、最初に計画されたのは6大都市を最短で結ぶ中央軸であったが、混乱があり、その後複数の国土軸が提案されている。）

② 次に、設計速度(km/h)をどう想定するか！

欧州の速度規制は表の通り 120~130 と著しく高い。ドイツでは速度フリーの区間もあるが推奨速度は 130 としている。そこでどういう提案をするべきか？

軽々に新基準の設定する訳にはいかないので、道路構造令の定める最高速度の 120 を基準に線を引き、低くとも 100km/h のサービス速度(*1.4)を提供した。

(*1.4)道路の速度には、「設計速度」以外に「規制速度」、「実勢速度」などの概念が有り、その何を適用するかという思考が必要になります。「設計速度」は舗装状況、湿潤状況、タイヤの品質などの安全サイドをとって設定していますから、今どきの整備された乗用車であれば、120の道路を130以上で走ることは容易で、かなり安全圏にあります。その辺の事情も知っておく必要があります。

参考資料です。

国名	制限速度 (km/h)	備考
英国	113 (時速70マイル)	
フランス	130	
イタリア	130	
スペイン	120	
スイス	120	
オランダ	120→130	2012年改定
スウェーデン	110→120	2008年改定
ドイツ	なし	奨励速度130km/h

設計速度(km/h)	曲線半径(m)	
120	710	570
100	460	380



このカーブ如何ですか？ 最初に開通した江津～浜田間 17.7 km ですが暫定2車なので、70規制ですが完成4車 時には 120 は余裕で走れますよ。
(将来の4車確保の用地買収も既に済ませています。)

*Google Earth で天空からこの線型を見て頂くと、「我々の地図に残る仕事」が、ナスカの地上絵のような美しい曲線としてご覧いただけます。



③ 僻地にだって、高速道路が必要なワケ？

あの時代にはそういう議論をあまりしなかったけども、現在の都市住民には「無駄な公共事業」と考え「そんな僻地には高速なんて要らない！」と言う人も少なくないであろう。

現実には、この管内(=石見地域)の西部に位置する**益田市(合併した匹見町)**は「日本の過疎発祥の地」とされる。また東部に位置する**江津市**は本州で公共交通機関使って行く場合、「東京から一番遠い都市」と言われています。

なんと不名誉な話ばかりですが、そこで筆者は考えるのです、未来の「この国のかたち」「地域のかたち」を考え、今回のケースは、「**そういう不便な地域にこそ抜本的な時間短縮が求められるという物語(*1.5)**」が必要なのです。(重要)

(*1.5)世の中、様々な事業を、単純にB/Cで論じるケースが多い訳ですが、本件のような「未来プロジェクト」には「常識を排した、未来への夢のある理想郷を描く」と言う、一見すると非常識に見える「発想の転換」が必要ではないでしょうか。

④ 高速性を「内・外」物流ネットワークの強化に繋げたい

浜田漁港は山陰では境漁港に次ぐ水揚げ高を誇る日本海有数の水産都市です。

隣接する浜田商港は釜山(韓国)とウラジオストック(ロシア)への国際定期航路を持つ。そんな「水産物流+国際物流」に山陰道への直結道路を設けたい。



◆ 所長の二つ目の要望は、「石見地域ならではの、ドライブを楽しんで欲しいので、景観の良い道路を計画して欲しい」という要望でした。

この要望についても、筆者はドライブが好きで、「この地域を公私共々よく訪ねている人間」ですから、これは願ってもない、素晴らしい指摘を頂きました。

そこで、以下のような構想を立てました。(*東側から観光ガイド風に案内します)

① **赤瓦の街並が美しい**・・・山陰自動車道は江津市に入ると、やがて中国地方一の大河「江の川」を渡ります。しばらくすると視界が開けて、右側に「全て赤瓦の街」といっても過言ではない風景が広がります。その主産地こそが江津市です。最近では瓦の需要が減少したので、壺や茶器も生産しています。

② **中国横断道とのジャンクション**・・・下府川を高さ90メートルの橋梁で越え、高規格を維持しながら中国横断道・広島浜田線にジャンクションで交差します。(*2.1)この先は浜田市街の裏山三階山などのトンネル区間となります。

(*2.1)そこで中国横断道(広島浜田線)を一部使って、国道9号 BP を経由してBPに併設された「道の駅浜田」に立ちよれば、眼下に浜田漁港を展望出来ることから、この道の駅の利用率は非常に高く、夕日パークとも呼ばれます。

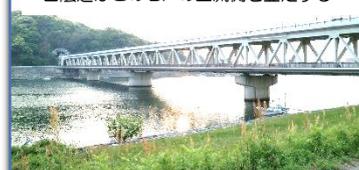
③ 日本海・絶景のドライブコース

浜田市街を、を過ぎると日本海の大原が益田まで続きます。国道九号線と JR 山陰線が海岸線を所せましと走っています



が、山陰自動車道はその上の標高30m~50mの比較的なだらかな地形に高規格な線形を挿入することができました。ドライバーから見える「日本海の大原」「沈む夕日の美しさ」「夜になると漁船の漁り火」・・・筆者は、時間帯を選んで、これを何度も実体験

新江川橋はダブルデッキのトラス橋 (上部が9号BPで下部が市道) 山陰道はこのBPの上流側を並走する



石州瓦の赤い色が美しい焼物の街並



日本海に沈む夕日が絶景



夜のイカ釣の「いさり火」は幻想的です



しています。いい場所に計画線が引けた喜びです。

- ④ 益田市に入ると風景は一変して平地が開けてまいります。ここに「益田市発展への核となるIC」を計画し、JR益田駅直通の4車線のアクセス街路を提案しました。他方で、国営農地開発事業によるメロン、トマト、ブドウ、また養鶏や牧牛も盛んで、中国地方よりも関西・関東方面に出荷。大変優れた事業展開をしています。やがて山陰道は中心部を流れる津川を跨ぎ、石見空港にアクセスしつつ、萩市に向かいます。



◆ 道路への更なる役割の提案

*コンサルは発注者から「指示されたことだけやればよい」と言うのが一般的ですが、筆者は「それじゃダメでしょう」と思っていました。

道路は B/C 等の経済性だけでなく、もっと幅広くこの地域独自の優れた歴史・文化・グルメなどの資源を探索し、この石見地域への幅広い交流への役割を考察したいと思います。

- ① 浜田を中心に幅広く行われている「石見神楽」ですが、この地域を代表する芸術あるいは文化と言ってよいでしょう。
- ② 江津の石州瓦と並んで「石見焼」の窯場が10カ所くらいあります。味わい深い逸品もあり、一個五千円以上します。
- ③ 浜田の名産物は何といてもお魚、高級魚ノドグロ(日本1位)、アンコウ(3位)、アジ、サバ、カレイ、イカ・・・全て遠方モノとは味では比較になりません。広島魚屋は半分以上を浜田産に依存しています。
- ④ 益田のM牧場のブランド牛は現在8千頭(一国内有数の規模)飼育され、上質の肉を生産し、益田市本社のスーパーK以外には、広島を飛んで関西・関東に出荷されています。(*3.1)
- ⑤ 高津川は国管理河川での水質第一位を誇る名川で、鮎や川ガニ(*3.2)は絶品。その味は中国地方1と評価されています。
(*3.1) 筆者は益田に行くとき必ず買って帰る一品です。
(*3.2) 鮎は春～夏に、蟹は秋口に海から遡上する「上海ガニ」と同種で、筆者はその時期を狙って、毎年食べに通っているグルメファンです。
- ⑥ グルメの話題が続いたので、歴史や芸術にも触れておきましょう



まず1人目は室町時代に活躍した「雪舟」です。

水墨画の巨匠。石見を終焉の地と選んだことに因んで益田市に「雪舟の郷記念館」を設けています。雪舟の水墨画(*3.3)は、どこかに日本海の荒波や断崖の風景に通じるものがあるように私には思えます。

雪舟はその他に「雪舟庭園」を全国に18作庭し、石見地域には江津市1, 益田市3存在します。

(*3.3) 雪舟の山水画は

全6点が国宝指定されています。



⑦ もう一人、「歌聖、柿本人麻呂」を外すわけには生きません。

石見国の益田市に生まれ、飛鳥時代から奈良時代に宮廷歌人を努め、晩年は石見国府の役人を努め、そして石見国で没したとされている「柿本人麻呂」は、万葉集の中でもっとも数多くの歌の数を残している「歌の巨人」として、今日にも大きな存在感を残している。

●「柿本人麻呂、没後1300年記念イベント」に参加した

筆者は、昨年（2023年）26日から2日間の日程で参加した。

「益田市の島根県芸術文化センター・グラントワ」で、県知事らの列席の下で、来場者約 200 人が、2日間にわたるイベントに、益田の宝「柿本人麻呂」に思いをはせたとの報道。（山陰中央新報）



筆者の趣味を明かすようですが、「土木人で有りながら音楽ファン」として、この2日間のイベントは、非常に格調が高く（原作、編曲、演出、楽器、歌唱の全てに関して）素晴らしいと感じた。終演後に、事務局長にお会いして、私が広島から来たことも伝えつつ、大変素晴らしかった旨の感想をお伝えした。

ただ問題は、「没後1300年祭」への力の入れようにも関わらず、聴講者がたったの200人という少なさは何故？ 800人の満席でもおかしくないはず・・・と事務局長にお伝えした。（*3.4）



■ アウトバーンは実現したのか？

筆者は現状を以下のように評価しています。

- ① 山陰自動車道の完成(暫定2車)42.9km (53.0%) は、未だ道半ばと言わざるを得ない。
- ② 暫定2車の場合の規制速度は70kmのため、これは高速道路と呼べない。
- ③ 現在の暫定2車から、完成4車への動きが全国的に高まっており、本件の江津道路も17.6kmも計画に入っており、一部アウトバーン並が実現する。
- ④ 山陰自動車道のうち、工事中の三隅益田道路、予算化された益田道路の一部の開通で、当座は60.9km(75.2%)が待たれる。
- ⑤ いずれにしろ④の全区間の早期4車化を臨むところで、75.2%のアウトバーン並が実現すれば、江津市や益田市への大幅な時間短縮が実現し、この地域の国内外の物流ネットワーク、更には各種のグルメ、芸能、文化、歴史への大いなる交流を期待できる。

(*3.4) 幅広い道路の役割として、速度が2倍になれば、「地域の交流エリアは4倍に広がるという原理」、こういう理解の重要性を知って欲しい。例えば、前掲の3/4空席の「柿本人麻呂」のイベントに、筆者の住む「広島～益田」現状 4 時間から、横断道の4車化と山陰道のアウトバーン化による、1時間10分に短縮されれば、日帰りで参加できる。これは、益田市の人口は5万人だが、広島市の120万を取り込める効果が期待できる。

2024年度・浜田工事事務所管内・全81kmの現状														
	山口県 (未着手) (設計中)			益田道路 (工事中)			三隅益田道路 (工事中)		浜田BP		江津道路		江津BP	
	須佐	飯田	小浜	飯井田	高津	久城	遠田	三隅	内田	浜田JCT	江津	鏡津	浅瀬	福光
国道BP														
本線	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
県道				■	■							■	■	
延長	7.7	9.1	5.8	2.8	5.0	15.2	14.5		6.4		17.6	3.1	4.0	7.4
	★ 山陽自動車道の完成(暫定2車)=42.9km、 工事中を含めると60.9km										★ 国道BPや県道利用まで含めると59.2km			
	★ 浜田工事事務所管内での進捗率=各々 53.0% 及び75.2%										同 73.1%に相当する			

▼土木と市民社会をつなぐフォーラムから

シリーズ 子どもが知りたい土木の世界を発見！

土木の
しごと

このコーナーでは、CNCP 会員や関係者の皆様から提供いただいた、土木構造物のぬりえや素敵な写真、イラストなどの作品を紹介します。

土木ぬりえ とこ がため こう 床固工



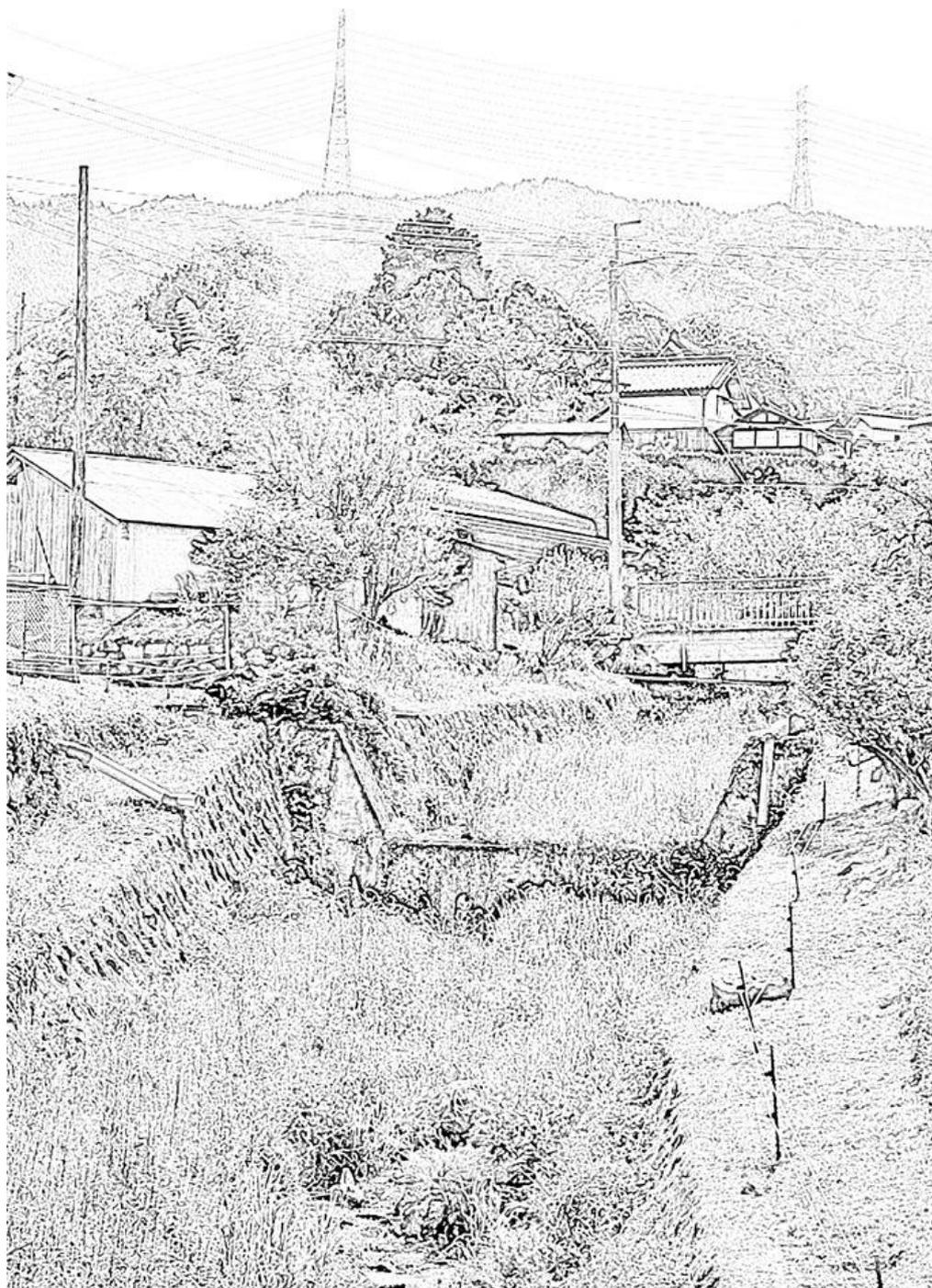
画面中央にある **し** が床固工です。
この写真では植物に覆われていますが、水路のなかに床固工があります。

床固工の役割をWEBサイトでご紹介しています。以下のQRコードまたはURLより詳細をご覧ください。



<https://npo-cncp.org/5203>

写真撮影：白石典子
撮影場所：大阪府能勢町
撮影日：2018年4月29日



ぬりえの作成は、(株)パイロットコーポレーションの「写真でぬりえをつくろう。」を活用しています。
「写真でぬりえをつくろう。」 <https://pilot-nurie.jp/>

▼フレンズコーナー

東亜建設工業の ESG 経営と社会とのつながり

東亜建設工業株式会社
 経営企画本部
 ESG 経営企画部 課長
猪飼 吉宏



1. ESG 経営の取り組み

当社グループでは、“高い技術をもって社業の発展を図り、健全な経営により社会的責任を果たす（社是）”の企業理念に則り、“社会を支え、人と世界をつなぎ、未来を創る（TOA2030）”の長期ビジョンのもと、ESG 経営を推進しています。

「私たちが創る未来（Blue・Green、Resilience・Smart、Well-being・Social-Responsibility）」を目指し、東亜らしい3つの社会価値の創造の実現に向けて様々な取り組みを行っています。

その取り組みの中から、具体事例をご紹介します。

東亜らしい3つの社会価値の創造

<p>E 持続可能な自然環境のために環境負荷を低減する</p> <p>施工および当社保有技術を通じて温暖化抑制対策や生物環境の保護などに貢献します</p>	<p>S 高度な技術により人々の「安心な生活」を支える</p> <p>高度な建設技術により持続可能性の高いインフラ整備、防災対策、快適な都市環境整備に貢献します</p>	<p>S 社会、社員との信頼を守る企業であり続ける</p> <p>G 高度なガバナンス体制の構築などにより社会から信頼され、社員が安心して働ける企業となり、社会的責任を果たします</p>
--	---	---



私たちが創る未来

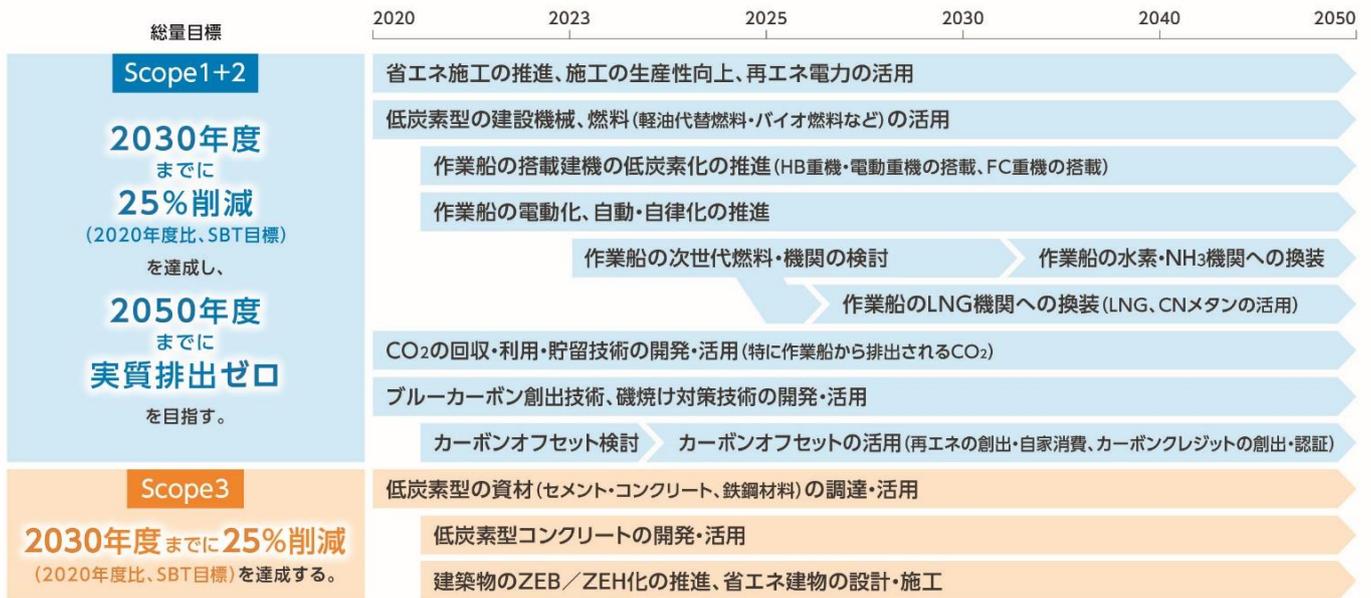
- Blue・Green**
 青い海と青い空、そして緑あふれる街
- Resilience・Smart**
 安全・安心な街、そして快適な都市環境を整備
- Well-being Social-Responsibility**
 社会から信頼され、社員からも愛される企業へ

【E】 持続可能な自然環境のために環境負荷を低減する

・カーボンニュートラル達成に向けた取り組み

気候変動への対応（脱炭素・カーボンニュートラル）は、世界的に取り組まなくてはならない喫緊の課題であり、なかでも建設業が果たすべき役割は非常に重要であると考えています。当社では長期ビジョンの達成に向けた中期経営計画の中で、2050年のカーボンニュートラルを目指すロードマップを公表しています。また、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の最終提言に沿った気候関連の情報開示をさらに拡充し、目標達成に向けた取り組みも着実に進めています。

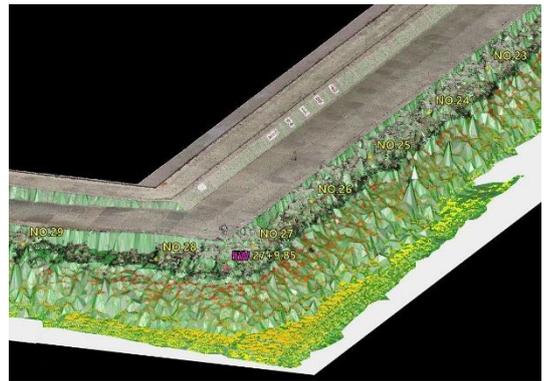
東亜建設工業グループ カーボンニュートラルロードマップ



※2023年3月作成

【S】 高度な技術により人々の「安心な生活」を支える
 ・台風復旧工事で「近畿地方インフラ DX 大賞」優秀賞受賞

2018年の台風21号により被災した神戸港埋立処分場南護岸において、当社は嵩上げ・復旧工事を担当しました。施工箇所の測量を実施し、被災の全容を迅速かつ正確に把握しました。また、海底から陸上までの3次元地形モデルを作成し、消波ブロックの据付位置や必要数量の検討、出来形確認に活用し、迅速かつ確実な復旧作業を実施しました。これらの取り組みが評価され、「令和4年度近畿地方インフラ DX 大賞」において、優秀賞を受賞しました。



神戸港埋立処分場南護岸の3次元地形モデル

・3.11 伝承ロードの映像アーカイブに認定
 一般財団法人3.11伝承ロード推進機構は、東日本大震災の記憶や経験を後世に伝承する活動の一環として、建設業界が復旧・復興で果たした働きを貴重なレガシーとして残す事業を進めています。津波で破壊された陸前高田市の気仙大橋を当社がわずか61日で復旧させた記録「気仙大橋を通せ！」が、映像アーカイブ事業の第7号作品として認定を受けました。



YouTube 動画「気仙大橋を通せ！」

■ 気仙大橋を通せ！
<https://www.youtube.com/watch?v=6EOpwGQrRzc>



【S・G】社会、社員との信頼を守る企業であり続ける

・地方自治体の SDGs 活動への貢献

滋賀県湖南市に建設する物流倉庫の工事着手にあたって、地域貢献の一環として企業版ふるさと納税を行いました。湖南市では、多様な主体との連携による地域活動の創出や、未来の創造を目指す SDGs 未来都市の推進を進めています。「こなん SDGs カレッジ」という活動では、地元の中학생・高校生・大学生が、湖南市を舞台に自分のやりたいことや地域との関わりを探求し、新たな自分や街の可能性を追求しています。当社は、この取り組みに賛同し、2023 年 8 月 9 日に中학생・高校生・大学生を対象とした現場見学会を開催し、25 名の学生と 3 名の市職員が参加しました。



中학생・高校生・大学生向け現場見学会

・「教員の民間企業研修」の受け入れ

当社は昨年度、一般財団法人経済広報センターが主催する「教員の民間企業研修」の受け入れました。この研修は、学校の教員の方に民間企業での研修を通じて企業の事業活動に対する考え方や実務内容等の理解を深めてもらい、その体験を子どもたちへの教育や学校運営などに活かしてもらうというものです。昨年度の研修では、当社と東京湾埋立の歴史の紹介や、当社の ESG 経営の説明、建築・土木現場の見学、横浜市内の当社施工インフラ施設の視察などを行い、当社の取り組みや建設業が社会に果たす役割の重要性を認識してもらいました。



教員の民間企業研修の様子

・外国籍社員の活躍

当社は外国籍社員の雇用を積極的に進めています。中国、ベトナム、ミャンマー、マレーシア、フィリピン、ネパール、パキスタン、インドネシア、インド、イギリスなど、幅広い地域からの外国籍社員が、国内外の施工現場などで活躍しています。



インドネシア共和国パティンバン港工事事務所スタッフ

2. まとめ

当社は、以上のような E（環境）、S（社会）、G（企業統治）の取り組みを通じて、社会とのつながりを深め「社会を益する」ことに日々挑戦しています。株主、お客様、協力会社、社員など様々なステークホルダーからの社会ニーズに応えることで新たな社会価値を創造し、建設事業を通じて蓄積してきたノウハウを活かしながら、安全・安心な社会資本の整備に今後も貢献してまいります。

CNCPは、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です！

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

●登録事務所

〒110-0004
東京都台東区下谷
1丁目11番15号
ソレイユ入谷9F

事務局長 田中努：

cncp.office@gmail.com
ホームページ URL：
<https://npo-cncp.org/>



▼事務局通信

■4月の実績

●第120回経営会議

開催日・場所：4月15日（火）WEB会議

議題：プロジェクトの計画・報告および支援金の授受の流れ／サロンの反省と次回／プロジェクト特別調査研究／HP代表挨拶の更新／予算編成の見直し

■5月の予定

●第121回経営会議

開催日・場所：5月14日（火）WEB会議

議題：各事業の進捗と予定／プロジェクト特別調査研究

■現在の会員と仲間の数

●会員：賛助会員30／法人正会員10／個人正会員27
／合計67

●仲間：サポーター107／フレンズ120／土木と市民
社会をつなぐフォーラム15／インフラパートナー18
／合計260

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただいています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発
／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイ
アート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シン
ワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹
中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島
建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサル
タンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田
建設工業（以上30社）



土木と市民社会を
つなぐフォーラム



インフラパートナー
JSCE 土木学会